

今月の一言

キーワード：とんがり

性格が「とんがって」いたり、考え方が偏っていたりしても、それがその人の能力や個性に結びついていけば、周囲は許容するようになります。むしろ、受け入れられ、そのキャラクターが必要とされる場合もあるでしょう。

つまり、自分の「とんがり」や「偏り」をいたずらに否定せず、個性＝武器に変える必要があります。白鵬にしても、とんがったり、偏っていたりしているところはあると思いますが、それを無理に変えることで成功してきたわけではありません。

稽古の仕方も相撲界の慣習どおりではなく、その意味ではとても偏っていますがむしろ、その偏りを大切にしてきたことで自分の「型」が生まれました。それが、相撲取りとしての白鵬の個性＝武器となっていったのです。

成功した人に「変わり者」が多いのも、世間の常識に縛られず、自分のスタイル＝型や個性を大事にしてきたからなのでしょう。

もちろん、とんがりや偏りを自分の武器にするためには、つねに研鑽が必要です。その研鑽に何が必要か？

好奇心・持続性・柔軟性・楽観性・冒険心

著書：白鵬のメンタル 著者：内藤堅志より

“出る杭は打たれる”

ことわざ：頭角を現す人は、とにかく人から憎まれたりねたまれたりすることのたとえ。

ドンドンと出る杭になって、成長して欲しい！

2015年2月25日

さいのう とおる

追伸：2月22日に創立63年を迎えました。皆様に感謝いたします。

“第一交易らしさ＝差異”の構築に向けて全員で頑張りましょう！